

未完成のままで、ありがとう

クリステン・リム・ユ・シ

皆さん、こんにちは。今日、私は「昔の自分に伝えたいこと」について話したいと思います。みなさんは小さい頃の自分をまだ覚えていますか。小さいころの私は、とても恥ずかしがり屋でした。たぶん今もそうです。

「この子はおとなしいね」「もっと笑ったらいいのに」「いい子ですけど、もう少し明るくなったほうがいいね」。よくそんな言葉をかけられました。そのたび、過去の私は「自分には何か足りないのかな」と思って、不安になりました。それらの言葉はまるで呪いのように、どこまでもついてきました。

「未完成」は ダメなことだと、本気で思っていたんです。でも今の私は、昔の私に こう伝えたいです。「未完成のままで、ありがとう。誰かの理想になれなくても、あきらめずに進んでくれて、ありがとう。」

小学生のとき、スピーチ大会に出たことがあります。緊張しすぎて、声がほとんど出ませんでした。賞も取れず、家に帰って泣きました。「もう人前に立ちたくない」と思いました。けれど その後、ダンスのイベントで、またステージに立つことになりました。たくさんミスをして、動きもバラバラ。終わったあと、「恥ずかしい！！」って、顔を上げられませんでした。けれど、客席から大きな拍手が聞こえました。「たのしそだったね」と言ってくれる人もいました。そのとき、私は初めて気づきました。間違っても、心から踊れば、それで十分なんだ！

「未完成」こそが、いちばん自然で、美しい形です。なぜなら、未完成である限り、人は成長できるし、自分をつくり続けることができるから。あの不器用で、未完成だった私がいたから、私は今こうしてここに立っています。これまでも、これから、私が一番時間をかけて 作り続ける作品は 自分自身です。

その自分は今、留学という新しい挑戦の中にいます。不安もあるけれど、だからこそ、昔の私がくれた勇気が 心強いのです。私にとって、人生は、一枚の絵のようなものだと思います。完成していなくてもいい。むしろ「未完成」だからこそ、これからを自由な色で えがいていける。

昔の自分へ。そして、今の自分へ。「ありがとう、よく頑張ってるよ。」これからも、未完成のままで、前に進んでいけます。

ご清聴 いただき ありがとうございます。